

市立

いちかわ

自然博物館だより

平成30年(2018年)

4-5月号

(通巻 175号)

2018年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

ヒバリ

白くくすんだ春の空が連想される野鳥です。川の堤防や畑で頭上に広がる空からにぎやかな歌声が聞こえてきます。

P1 ☀️ いきもの写真館
ヒバリ

P2 ☀️ 気にしておきたい市川の自然
すみれ
/ 3

P4 ☀️ 身近なところに花鳥風月
ニホンカナヘビ

P5 ☀️ 街かど自然探訪
奉免町・大六天の森

☀️ くすのきのあるバス通りから
冬から春へ

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
アカハライモリ

P7 ☀️ わたしの観察ノート
1月～2月の記録

P8 ☀️ 行事案内

すみれ

すみれは、日常会話の中にも登場するよく知られた野草です。ただ近年は目にする機会が減り、言葉ばかりの存在になっているようです。市川市内でも自然環境の変化や都市化の影響で、すみれは大きく数を減らしています。

明るい場所を好む野草

スミレは、いわゆる里山に生育する小さな野草です。市川市内でも里山が広がっていた時代には普通に見られ、「市川市史自然編」の植物リストには、13種類が掲載されています（絶滅種、帰化種を含み、変種と基準種は同一にカウント）。基本的に明るい場所を好みますが環境によって見られる種類は異なり、明るい草原にはスミレ（種としてのスミレ）、ノジスミレ、ヒメスミレ、ニオイタチツボスミレが、明るい雑木林とその周辺にはタチツボスミレ、コスミレ、マルバスミレ（ケマルバスミレとは変種の関係）、アカネスミレが生育します。休耕田などの湿地ではツボスミレが見られ、江戸川のヨシ原にはかつてはタチスミレが生えていたとされています（タチスミレは市川市内では絶滅）。

市川市内のスミレ類は、近年大きく数を減らしています。その理由はさまざまですが、主な理由は次のようになります。

- ・スミレ類が生育する明るい草原が宅地開発などで失われた。
- ・明るい草原に人手が入らなくなり、大型の草が生えるやぶになった。
- ・林の遷移が進み、明るかった雑木林に常緑樹が増えて暗くなった。
- ・スミレ類が生えそうな林縁が花壇のように扱われるようになった（パンジーが植えられることも！）。

- ・一部のスミレ類が好む湿地やヨシ原が減少した。

自然の様子はさまざまに変化します。スミレが生える環境が「良い環境」で、スミレが生えなくなったら「悪い環境になった」というわけではありません。人々の暮らしが農業中心で、地域に農地を主とする里山が広がっていた時代にはスミレ類が旺盛であり、環境が変わったら下火になっただけと言うこともできます。

帰化種と園芸種とヒョウモンチョウ

スミレ類を幼虫の餌とするチョウがいます。ヒョウモンチョウのなかまです。市川市域のような都市部では、スミレ類の減少や環境の変化によって幻のチョウになりましたが、近年、南方からツマグロヒョウモンという種類が分布を広げ市川市域にも定着しました。ツマグロヒョウモンの幼虫が食べているのは、パンジーやビオラなどの園芸種のスミレと、増加傾向にある帰化種のスミレ（アメリカスミレサイシ）です。

里山の環境が無くなるとともに在来のスミレ類とヒョウモンチョウ類が姿を消し、新たに登場した都市の環境では、人の営みによって増えている園芸種



ツマグロヒョウモン

と帰化種のスミレを餌に新たなヒョウモンチョウが増えているわけです。例えるなら、同じ芝居が、違う劇場と違う役者で演じられているようなものかもしれません。



スミレ
1997年04月13日
大野町4丁目市川霊園



マルバースミレ
1988年04月22日
中国分3丁目



ニオイタチツボスミレ
1998年04月04日
柏井町2丁目



アカネスミレ
1986年04月24日
柏井町2丁目



ヒメスミレ
1988年04月22日
柏井町2丁目



ニホンカナヘビ

身近なところに花鳥風月

当館学芸員の自宅の庭で出会ったさまざまな生き物を
このコーナーでは紹介しています。

庭のカナヘビを

もったいを付けて紹介するなら

庭の生態系の頂点に君臨する高次捕食者

ということになります。

高次と言っても、草→バッタ→カナヘビの3段階です。

それに、毎日巡回してくる近所のネコや

移動性の高いムクドリなどの鳥類は別にしての話です。

それでもカナヘビは妙に気になる存在です。

庭で暮らす、我が家では唯一の脊椎動物だからかもしれません。



街かど自然探訪

おじゃまします!

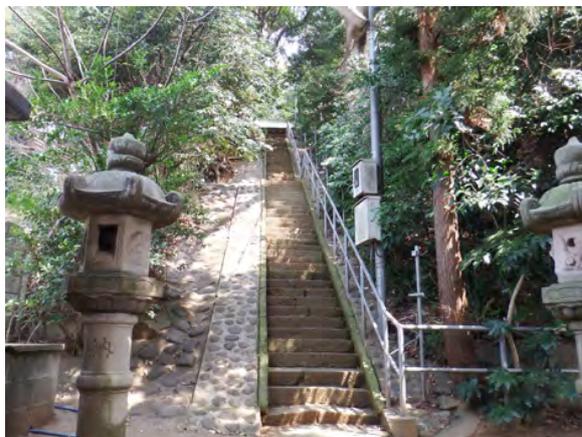
ほうめまち 奉免町・大六天の森

大きな2本のスダジイが、鳥居の両脇に生えているのが、目印です。常緑樹なので、冬でもこんもりと葉をつけていますが、その先端では芽が割れて、新しい葉が見えていました。

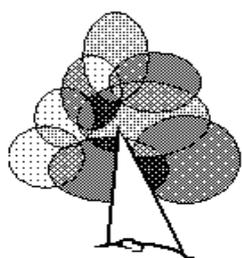


△汗ばむ陽気の日、常緑樹の木陰はひんやりしていました。

お社は急な階段の先にあります。柏井の町から続く台地の縁に位置するので、約10mの高低差をのぼらなければ行けません。斜面にも常緑樹が多いので、高さのある大きな森に見えます



△石段の下からお社を見あげる。



くすのきのあるバス通りから No.117

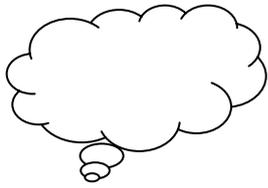
冬から春へ

1月末から2月の初めに、久しぶりに全面凍結した茨城県の「袋田の滝」と川の氷や、埼玉県「三十槌の氷柱（みそつちのつらら）」や凍ったダム湖を見てきました。その後、「寒さの影響で、河津桜や梅の開花が2週間遅れた」と、ニュースになりました。

とても暖かい日が続き、春に咲く木の花の順番が詰まって、コブシ、ジンチョウゲ、ハクモクレン、モクレン、

カンヒザクラ、トサミズキ、マンサクなど住宅地の庭先で一斉に咲いているかのようです。3月1日コウモリが飛んでいました。9日は雨が降り暖かく、近所の池のある家で「ウ、ウ、ウ」と鳴き声がしました。出勤で通りがかった娘は、「道路で死んでいたカエルをカラスが食べていた」といっていました。ユスリカでしょうか、夕方蚊柱になっていました。

(M. M.)



展示室

No.19

飼育生物の話題



貢献度が低い アカハライモリ

飼育展示しているアカハライモリは、どれもお客さんからいただいたものです。子どもが飼っていたけど大きくなったとか、海外赴任することになり連れていけないなど、理由はさまざまです。首都圏では絶滅が心配される存在ですから、当館の近隣の生息地での捕獲よりはペットの個体をいただいて展示する方が現実的です。

知名度がある生き物なので、多くのお客さんが飼育水槽をのぞいてくれます。ですがイモリは、じっとしているか、物陰に隠れているだけです。みなさん、すぐに次の水槽へ移動してしまいます。そんなイモリも、餌を入れた時は活発です。普段の固形の餌でもよく動きますが、春のごちそうとしておたまじゃくしを与えると、泳ぐおたまじゃくしを追い掛け回します。何匹ものイモリが水槽の中を動き回る様子はワクワク感がいっぱいです。ただ、おたまじゃくしも飼育展示している関係から、開館時に与えるわけにいきません。小さな子どもたちの心の整理がつかない可能性があるからです。

獲物をつかまえる時にこそ「らしさ」が全開する捕食性の生き物は、展示効果の面で担当者にはジレンマのある存在です。

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・この冬は、草刈りをした関係で谷津全体が広々としています。コサギ、ダイサギ、アオサギが複数ずついます。1羽のダイサギはあまり人を恐れず、湿地を掘っていると、すぐそばまで来てミミズやザリガニをついばみます。スコップを入れようとした瞬間、後方からダイサギの首が伸びてきた時はびっくりしました(1/19)。
- ・草を刈って広々とした湿地で、トラツグミが小さな土の盛り上がりの上で得意げに踊っていました(1/29)。詳しい人に、このダンスがトラツグミの最大の魅力だと教えてもらいました。
- ・前夜に暖かい雨が降りました(2/11)。翌日はお約束どおりニホンアカガエルの卵塊がありました。谷津全体で53個、確認しました。
- ・増えすぎたアオキを切っていたら、葉に紙風船のような純白の多面体がありました(2/19)。これはクサグモの卵のうで、詳しい人に聞いた話では、中には卵からかえった幼生が休眠状態にいるそうです。
- ・極寒の中、ふきのとう数株が顔をのぞかせました(2/4)。気温とは違い、自然は案外暦どおりです。立春が過ぎ、春の気配が漂います。

◆大町より

- ・動物園内のザリガニ釣り場になっている人工水路にルリビタキ2羽が来ていました(1/19)。片方は全身が青いオスで、もう一方はメスの体色でした。2

羽は互いを意識しているようでした。

- ・見事に実ったツルウメモドキの実は、下の道路に落ちて、道路が赤や黄色になりました(1/24)。大雪の翌日、ヒヨドリが落ちた実をついばんでいました。

◆じゅんさい池緑地より

- ・梅林のそばのアベリアの植え込みを、ウグイスが素早く行き来していました(2/10)。一緒に歩いた人たちも、ぼつちり見れてうれしそうでした。

◆中山より

- ・小学生と自然観察をしました(1/16)。冬なので鳥を見てみよう、肉眼で近くから探し始めました。やがて上空のカラスに目を向けると、その先でオオタカが旋回していました。うまく見つからない子どもに、ロケットを探すつもりで、と言ったらうまくいきました。
- ・大きな葉の見慣れないロゼットがありました(1/16)。色が濃く棘が目立ちます。しばらく考えて、アメリカオニアザミが咲いていたことを思い出しました。茎や葉と同じく、ロゼットまでも痛そうでした。
- ・小学校の校舎のベランダの縁に、ジョウビタキが止まっていた(2/6)。子どもたちが気づく前に、飛んで行ってしまいました。

以上 金子謙一(自然博物館)

強烈な寒気が時に和らぎながら流れ込み、立春の後も極寒の日が続きました。1月23日には積雪がありましたが、雨は少ない冬でした。



行事案内



おやこ自然観察会

お申し込みが必要です。

水辺の生きものを自分たちで捕まえて観察します。
おやこで楽しめる自然観察会です。

- ・場所 自然観察園
- ・時間 午前10時～12時
- ・定員 各回とも、先着 親子20組
親子対象です。

日にち	受付開始日
5月13日⑩	4月21日より
6月10日⑩	5月19日より

お申し込み方法

受け付け開始日以降に
往復はがきに参加者全員の
住所、氏名、年齢、電話番号、
返信面に返信の宛先を明記の上、
下記までお申込みください。

〒272-0801 市川市大町 284 番地
自然博物館「O月観察会」係まで

長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 5月5日⑩、6月2日⑩、7月7日⑩、 午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	集合場所
春の田んぼ	5月20日⑩午前10時～11時30分	動物園券売所前 午前10時

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか。

(雨天中止)

- ・日時 4月29日⑩、5月27日⑩、6月24日⑩、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けを
お手伝いして下さいますか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 5月6日⑩、6月3日⑩、7月8日⑩、
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、
博物館までお電話でお問い合わせください。

第30巻 第1号 (通巻第175号)

平成30年4月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/shisetsu/haku/>